

たまいたま 川柳



白鳥 瀧沸湖 北海道

巻頭言

師走(しゅうすい)

早くも師走。どうやら今年初の句会が催行できそうな風向きになりました。昨年の三月以来、二十一ヶ月、句会も誌上句会も実施しなかつた吟社は珍しいでしょう。よくも耐えたものです。

そんな世間では、愛情たっぷりな動物飼育の話を見聞きすることが多くなりました。芸能人や投稿者の愛犬・愛猫・愛鳥振り等が、連日放映される。ところが他方、ニンゲンの虐待や殺傷の事件事故の話題も多く、相対してみると世の無常にうつむくことが多い。

イヌはヒトと目を合わせながらココロの交流を求めているようです。ネコは野生的な本能を忘れずに、ヒト様を自己中心で眺めています。飼育の鳥たちは種によって各様な態度を見せてくれる。

ところが、安易な動物飼育が無責任な放置につながって問題化している。愛護の必要性から、飼育動物へのマイクロチップの装着が義務化されている。そうなるニンゲン様以上の待遇ではないのか。迷子札よりは確実性があるのだから、徘徊が習慣化したヒトに對しても、家族が要請すれば・となるのだろうか。SF的ですが、今や国民総監視下の世界が現実として身に迫っています。

ともあれ、余りにも事件・事故の多いニッポンの師走です。安全がタダではないと承知はしていても、個が集団と共存しなければならぬ世間です。動物愛護を否とは言わないものの、足許を見つめながら、家族・友人・仲間との交流に、マスク抜きで、ココロの交わりの温かさが欲しい師走ではあります。

願法みつる

日日是好

さまざまに生きて落葉は語らない
散る花も咲く花もあり年を越え
犬猫の視線の中に悪いヒト
百歳がナンだと鍬入れる棚田
腰痛も頭痛もカミサマの知らせ

たぐり相見るさまざま糸
たった一つの縁の長短

惚れた弱みへ強く叱られ
いつも逃げこむ君の胸元
つよい言葉が涙ぼろぼろ

令和3年(2021年)
12月号 (No.745)

日川協加盟